

## 停留精巣発生調査への御協力をお願い

### (国立病院機構の停留精巣ネットワーク共同研究グループ)

停留精巣という病気は男の子が生まれた時に、精巣が陰嚢の中になく状態のことを言います。小児では比較的多い疾患ですがそのままに放置されますと精巣の萎縮や不妊の原因になったりします。また稀に停留精巣から癌が発生することがあります。

停留精巣には2種類ありまして、1つは生まれつき精巣が陰嚢の中に降りていない先天性停留精巣と、他の1つは生まれたあと一度は陰嚢内に降りていたものの1歳頃から徐々に精巣が陰嚢の上に上昇してしまう後天性停留精巣があります。今回は後天性停留精巣の発生について解明していくことを目的にしています。

お母様ならびにお子様にご協力をお願いしたいのは以下の2点です。

- ① 第1点はお子さまに通常の乳幼児健診を受けて頂き、お母様には3ヶ月～7ヶ月健診と3歳児健診のあと停留精巣発生の有無について、簡単なアンケートにお答え頂くことです。
- ② 第2点は停留精巣の原因を解明するため、お子さまがお生まれになったあと胎盤内に残っている臍帯血を2～3cc採取させて頂くことです。

アンケート用紙はお子さまがお生まれになった後、退院まえにお母様にお渡しさせて頂きます些少ではございますが3ヶ月～7ヶ月健診後にアンケート用紙をご返送いただきました皆様には500円相当のクオカードをお送りさせて頂く予定です。また3歳児健診後のアンケート用紙をご返送いただきました皆様には1500円相当のクオカードを用意させて頂いています。研究登録期間は2017年4月から2020年3月までの3年間を予定しています。

この研究ではお子さまに侵襲となるような検査や処置はいっさいありません。お子さまには通常の乳幼児健診を受けて頂くのみであります。

この研究は全国の国立病院機構の病院でお生まれになった男児を対象におこなっていますが、35週前にお生まれになったお子さまや2300gより小さくお生まれになったお子さま、大きな病気を持ってお生まれになったお子さまには参加を御遠慮させて頂いています。

この研究に参加して頂く利点としましては停留精巣を発症した場合、できるだけ早く治療をお勧めできますが、参加されなくても乳幼児健診等で特に不利益を被ることは全くありません。また途中で研究への参加を中止したい場合はいつでも同意を取りやめることができます。

この研究ではプライバシー保護のため参加されましたお子様の名前、住所等の個人情報はいっさい公表されることはありません。また採取させて頂きました臍帯血は研究終了後にすべて破棄いたします。

この研究につきまして不明な点がございましたらいつでも研究担当医師にお聞きください。

御協力の程、宜しくお願い申し上げます

アンケート用紙はお忘れにならないように母子手帳のポケットに保管し、同封のシールは3～7ヶ月健診、3歳児健診のページの空き箇所にお貼りください